

# AFPY だより

Adventure Friendship Program in Yamaguchi

第 4 号

H26.10.27

山口県教育庁 義務教育課

社会教育・文化財課

## 研修会で

先日、今年度第 2 回目となる「AFPY/森のチャレンジコース研修会」を十種ヶ峰青少年自然の家を会場に開催しました。その際、参加メンバーが決めたグループ目標は『一步踏み出す』でした。

## 『一步踏み出す』

とは

さて、『一步踏み出す』とは、どういうことなのでしょうか。人は、心に緊張感・焦り・不安等を感じることの少ない「慣れた環境」では安心・快適に過ごせるものです。この環境はもちろん必要ですが、ずっと居続けるだけでは成長に向かうことが難しいものです。安心・快適と感じる環境から自ら出てみることで、新しい体験との出会いによる「学びの環境」がつくられていきます。この学びの環境では、周囲の協力も得ながら「できないと思ったけれど、できた」「もう一度、やってみよう」等、試行錯誤を繰り返すことで自己の成長が期待できます。新しい体験の学びはやがて日常で活用され、少しずつ安心して過ごせる環境は広がっていきます。(図 参照)

この、「慣れた環境」から「学びの環境」に出ていくことが『一步踏み出す』ということではないかと考えています。

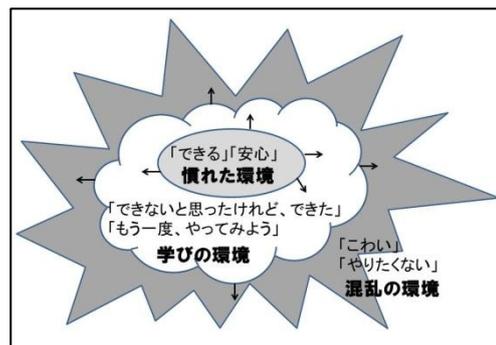


図 環境イメージ

## 人それぞれ

学びを提供する側は、「慣れた環境」「学びの環境」の感じ方は人によってそれぞれ異なることを知っておくことが必要になります。例えば、人前で話すことがあまり得意ではない子に「全校集会の時にクラス代表として発表してみませんか?」と誘ってみたとしても、ある子は「絶対に無理」と言うかもしれません。しかし、中には「原稿があれば、できるかも」と言う子がいるかもしれません。あくまでも、自分の意思により一步を踏み出すことが大切だと考えます。

## 『一步踏み出す』

ために

最初に紹介した「AFPY/森のチャレンジコース研修会」参加メンバーは、グループ目標の達成のために、“受容と発信”“積極性”などの個人の目標を名札と共に胸に貼り、全員で、お互いの「一步」を尊重していきました。一人ひとりを大切に考える中でのチャレンジは、グループの力をより一層高めていったように感じました。

～社会教育・文化財課の HP で、研修会の活動の様子や案内等をお知らせしています。～

AFPY |

検索

運動会等の大きな行事を終えて学級の様子を再確認してみませんか？（教室にあるもので、今すぐできる！）

《ねらい》 ルールを守り、友だちと話し合いながら活動しよう。

『パイプライン』

教科・領域等	特別活動（学級活動）	時間	45分程度
準備物	画用紙、ピンポン玉、ゴールになる入れ物（今回はバケツを使用）		
活動の実際 ※留意点	①八つ切り画用紙の短い辺を半分に切る。（短冊状に切る） ②画用紙を半円のパイプ状にしてピンポン球を転がす。 ③スタート地点からゴール地点（バケツ）までグループでピンポン玉を運ぶ。ピンポン球をパイプにのせている人は移動してはいけない。 ④このときストーリーを作って楽しむ。（例：「みんなの大切な宝物を狙っている宇宙人がいます。力を合わせて宝物を安全な場所に移動させてください。」） ⑤ゴール地点まで行くことだけが目的ではなくて、グループの作戦会議や途中の声かけを大切にす。 ⑥慣れてきたら「コースを長くする」「人数を増やして挑戦する」等、レベルを上げてチャレンジしてもよい。		
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦会議には、みんなが参加していましたか？</li> <li>・ルールを守って安全に活動しましたか？</li> <li>・自分の意見を出したり、友だちの意見を聞いたりすることができましたか？</li> </ul>		
継続的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を思い出し、日々の生活でルールを守って生活をする事の大切さを伝える。</li> <li>・友だちの思いや意見を聞くこと、話し合いに参加することの重要性をふりかえる。</li> <li>・集団で楽しく生活するにはルールが必要なことを場面をとらえて伝え続ける。</li> </ul>		
子どもたちの感想や変容、等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級遊びをする際に、子どもたちから「今日のルールを確認しよう」「みんなでルールを守って遊んだら楽しい」という声が多く聞かれるようになった。</li> <li>・「気をつけたいことは言葉遣いです。」「私が失敗したときにお互いがんばろうねと言ってくれました。」「こうしたらうまくいくよと友だちが教えてくれました。」「よかったことは「〇〇しよう」「〇〇したらいいよ」と教えあえたところです。」とふり返りカードに書いている児童がいた。</li> <li>・うまくできないことを気にする児童がいる。「もう一回やってみよう」「次にがんばろう」と仲間が声をかけた場面を何度も紹介することで、マイナスの言葉が減ってきた。</li> </ul>		
実践者からのひとこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動は全学年で可能です。工夫することでバリエーションもたくさん作ることができます。学期毎にやってみるのもいいですね。一緒に楽しみましょう！</li> </ul>		

（防府市立佐波小学校 山本直先生による実践）

